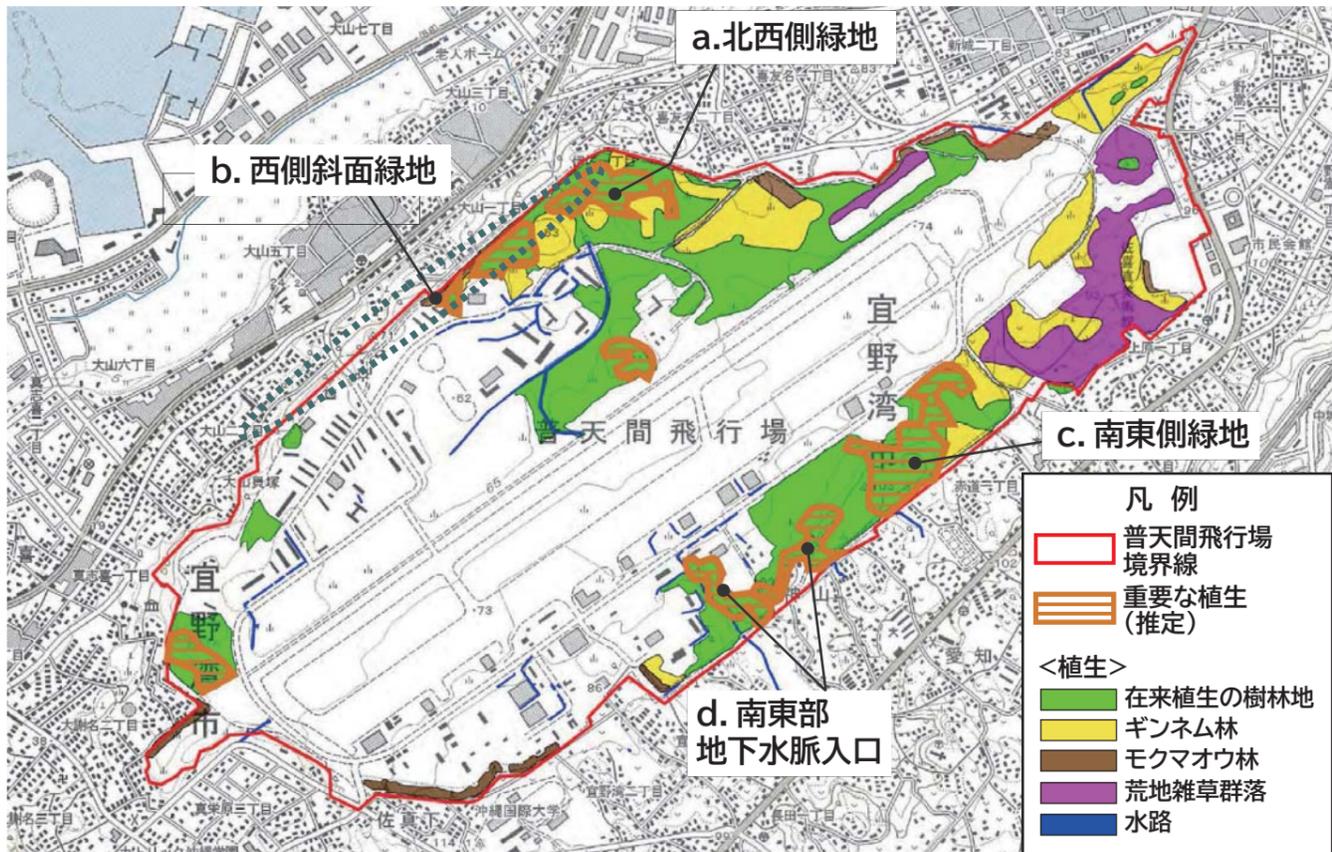


自然環境資源 (現状)

植生・生態系の現状

植生については、南東側の在来植生を主とした質の高い樹林地及び北西側の二次的に成立した樹林地において、貴重な動植物の生育可能性があるため、この2か所の樹林地が特に重要と考えられます。

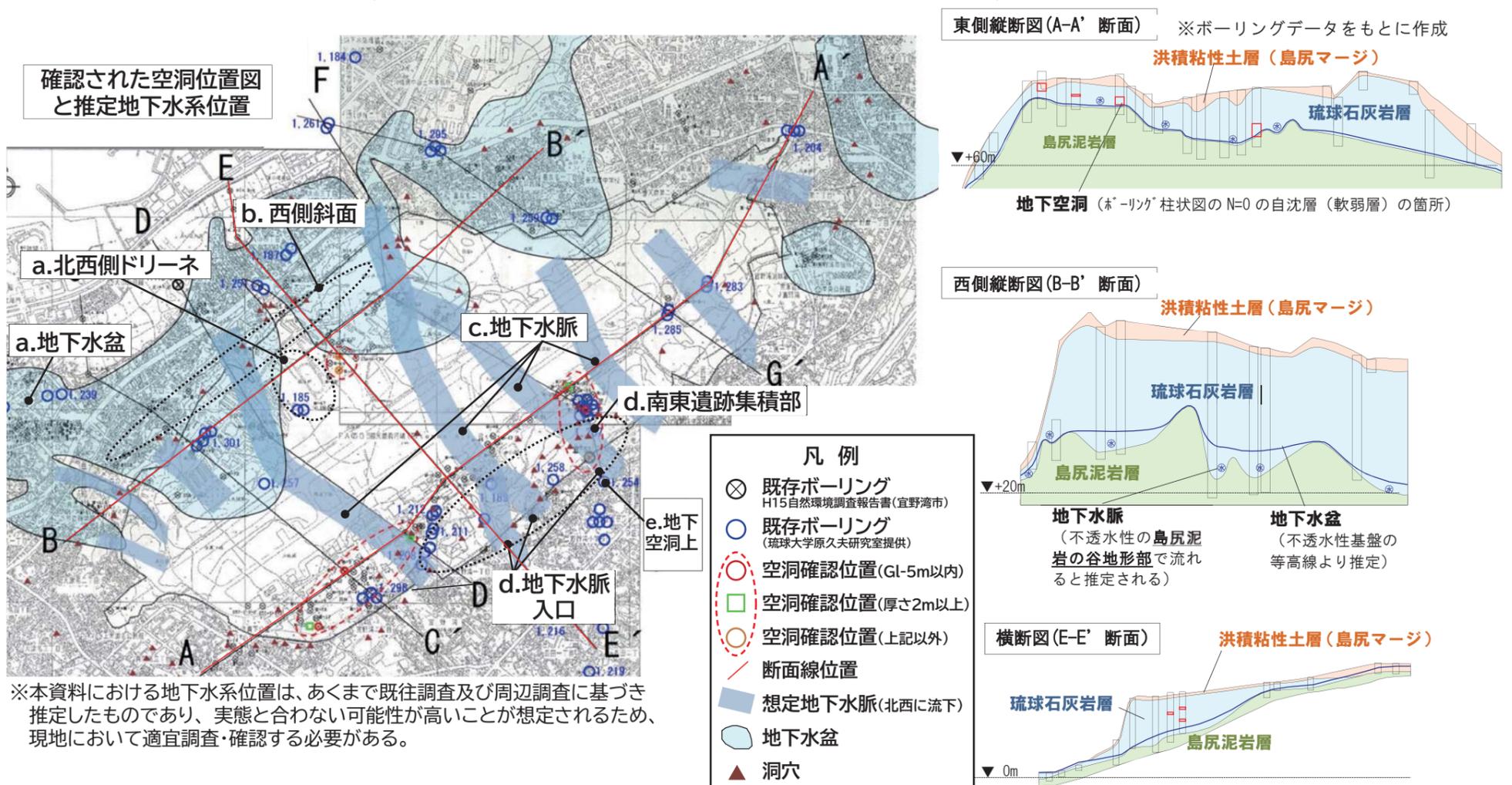


※本資料における重要箇所は、既往調査及び周辺調査に基づき抽出したものであり、現地において適宜調査・確認する必要がある。

箇所	現状整理
全体	<ul style="list-style-type: none"> 普天間飛行場の北西部及び南東部にまとまりのある在来植生が分布 極相林ではなく遷移途上の段階と考えられる
a.北西側緑地	<ul style="list-style-type: none"> 常緑広葉樹の遷移の初期段階の樹林帯に洞穴・遺跡が集中 大径木の分布が想定される 過去に耕作地だった場所に二次的に成立した樹林地と考えられる
b.西側斜面緑地	<ul style="list-style-type: none"> 旧海岸の植生や崖地林が連続して残存する 特に広域に連なる西側斜面緑地は生態系ネットワークにおいても重要な役割を担っている
c.南東側緑地	<ul style="list-style-type: none"> 戦前の御嶽や墓地林が残っており、樹林地内に洞穴・遺跡が集積する 大径木の分布が想定される 比較的質の高い緑であり、地形的には斜面林の立地環境に近く、同様の生態系が存在する可能性がある
d.南東部地下水脈入口	<ul style="list-style-type: none"> 南東側基地の内外で地下水脈の入口となる湧水・緑地が残存・連続する 水源涵養という視点でも重要な役割を担う

地形・地質・洞穴・湧水の現状

普天間飛行場内は、琉球石灰岩台地を広大な集水域とした複数の地下水脈を有する地域であり、西側斜面周辺に地下水盆（1つの大規模な帯水層又は帯水層群の分布地域）が形成されています。



※本資料における地下水系位置は、あくまで既往調査及び周辺調査に基づき推定したものであり、実態と合わない可能性が高いことが想定されるため、現地において適宜調査・確認する必要がある。